



Metallurgy

プレスリリース

ドイツ機械工業連盟(VDMA)製錬・圧延設備機械工業会

2017年は世界的な成長が追い風に

フランクフルト・アム・マイン:2018年6月14日 - 冶金工業会が製錬・圧延装置メーカーを対象に実施した最新の景況感調査によると、昨年の売上高は10%代前半となる2桁成長を記録した(12%)。また受注高も2017年下半期に再び若干の上昇傾向となった(3%増)。とりわけ、大型産業プラント部門の成長が顕著となった*。しかし、ドイツの生産量は総額15億ユーロをわずかに上回るにとどまり、結果、前年度に比べて約5%の落ち込みとなった。

業界は2018年の売上高の伸び率を平均7%と見込む

石油・原材料価格の高騰と2017年の世界鉄鋼生産量の5%の増加を背景に、業界の景況感調査においても、2018年に関しては、慎重ながらも楽観的見方が提示された。売上高は2018年末までに業界平均で最大7%まで増加する可能性がある。ただ受注高の動向においては、2018年の伸びは3%とかなり控えめな評価が下された。

2017年の世界貿易縮小にもかかわらず、ドイツからの輸出は26%増加

中国、イタリア、ドイツ、日本および米国という5大供給国の輸出高は2017年、全体で約6%弱減少した。冶金工業会は、この減少は世界貿易の減速** (約4%減)に関係していると見ている。ただしドイツは他の主要輸出国とは対照的に、大幅な輸出の伸び(26%増)を見せ、6億6,200万ユーロを記録した***。これでドイツは中国とイタリアに次いで世界第3位の輸出国の座を維持した。一方、中国は2017年に9億8,400万ユーロ(2%増加)と若干の伸びを見せて、最大の出荷量を記録した。2位はイタリアだった。アルジェリアとの貿易による特需が終了し、イタリアからの輸出高は約30%減の6億9,100万ユーロとなった。

2017年ドイツは多数の販売市場に向けて輸出を伸ばす

2017年、ドイツの冶金プラント・圧延機サプライヤーは主要市場への輸出を伸ばすことができた。前年と比較して、最大の販売市場である中国への出荷量は25%増加した。また欧州市場では、ベルギーやスペインなどへの輸出が伸びて、約5500万ユーロを記録した。全体として、EU28加盟国への輸出量は前年比で57%増加した。トルコ(266%増)とインド(160%増)への輸出も2016年と比較して上昇した。また2017年は北アフリカと中東への輸出が増加した一方で、北米への輸出は前年度水準を下回った。特に米国の輸出は30%減少した。とはいえ、米国はドイツの冶金プラント・圧延機メーカーにとって4番目に大きな市場である。

ゆるやかな上昇傾向が続く

冶金プラント・圧延設備メーカーを対象としたifo(ifo経済研究所)景況感調査によると、2017年の長期停滞を経て、今、業界では、今後3ヵ月先の輸出について期待が再び高まっている。またユーロ圏外の市場での競争力についても、明るい評価が出ている。さらに、2018年には中国やロシア、さらにはインドやベトナムなどのアジア市場でも輸出チャンスがあるとの回答が出された。2018年の第1四半期には、ドイツからの輸出は中国、米国、インドのみならず、スイス、オーストリア、ポーランドなど一部の欧州市場でも増加した。

ドイツ機械工業連盟(VDMA)製錬・圧延設備機械工業会のティモ・ヴュルツ取締役は、「地政学的環境が複雑化し、競争圧力が高まる中、冶金プラント・圧延設備メーカーは、直面している課題にこれまで以上に迅速かつ大胆に対応しなければならない。その際、技術革新能力がものを言う。新規設備ビジネスの見通しは依然として抑え気味であるが、その一方で、顧客はドイツの冶金プラントメーカーの技術革新力をより積極的に活用し、効率向上やデータによるプロセス改善の促進、さらにはデジタルビジネスモデルの実現も目指している」と現状を分析している。

* 2017/2018年のVDMA大型プラント製造業者グループ(AGAB)のレポート参照。

** 予測値。2017年の世界輸出データがまだ完全に揃っていないため。

***この値にはトータルプラントは含まれていない。

ご質問がある場合は、ドイツ機械工業連盟(VDMA)製錬・圧延設備機械工業会のイネス・ポラック(Ines Polak)にお問い合わせください。